

農薬の安全使用について

農薬を使用する機会が増える6～8月は、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、国の農業危害防止運動月間となっています。

農薬は、農薬取締法等の法令により、人や家畜への害が無い範囲を作物残留などの基準として定め、この基準に基づいた使用方法（対象作物や病害虫、使用量や希釈倍数、使用時期や回数など）が決められています。不適切な使用をすると、その作物は出荷不能となってしまいます。そのため、農薬を使用する際には、農薬ラベルや、最新の農薬登録情報を確認し、使用方法を必ず守るとともに、散布した農薬が周辺の圃場や作物に飛散しないよう、風向きや散布量、止水管理等に注意して下さい。

さらに、農薬の中には、毒物・劇物に指定されているものがあり、人体への急性毒性が問題となることがあります。そのため、農薬散布は、長時間の作業を避け、マスクやカッパなどを着用して朝夕の涼しい時間帯に行い、散布後には身体をきれいに洗うなど、自身の安全確保にも留意しましょう。また、農薬は専用の保管庫等に施錠して保管しましょう。

問 日野振興局 日野農業改良普及所 電話：0859-72-2026 FAX：0859-72-2090



農業危害防止運動啓発ポスター

しいたけ栽培用 ビニールハウスが活躍中!



鳥取型低コストビニールハウス

平成29年3月号では、ビニールハウスの中で、原木しいたけ（115号菌）が発生した様子をお伝えしましたが、今回は、ビニールハウスの役割がしいたけを発生させ、収穫するだけではないことをお伝えします。

生産者は冬の寒い時期、クヌギやコナラなどの原木に植菌していますが、天候を気にすることなく快適に植菌する



ハウス内の仮伏せ

ことができる作業場としてハウスを利用しています。

また、植菌した原木をハウス内に一時的に伏せ込めば（仮伏せ）、冷たい外気から保温して、しいたけ菌を確実に活着させることができます。

春になり、ハウス内の温度が上がってくると、裾を開閉して生長適温に調整するとともに、乾燥しないようスプリンクラーで散水します。

5月中旬から6月の梅雨にかけて菌糸がほだ木の中に伸ばしたのを確認した後、風通しの良い伏せ込み場に移します。

こうして、暑い夏を涼しい林内で過ごし、菌糸が蔓延したほだ木は、冬前に再びハウス内に運び込み、「鳥取茸王」のような立派なしいたけを発生させることとなります。

沢山の手間をかけ、育てられた美味しいしいたけが、今から楽しみです。

問 日野振興局 農林業振興課 電話：0859-72-2018 FAX：0859-72-2125

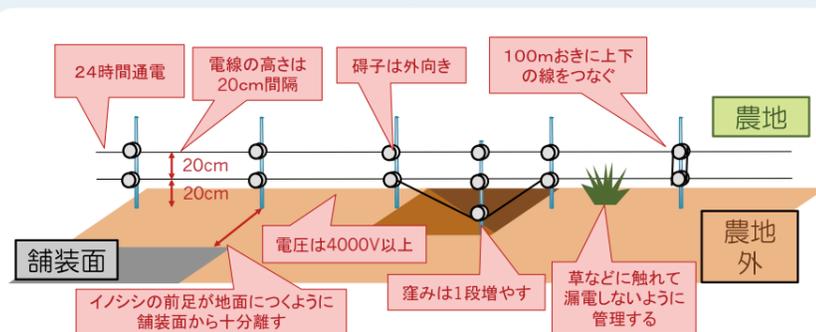
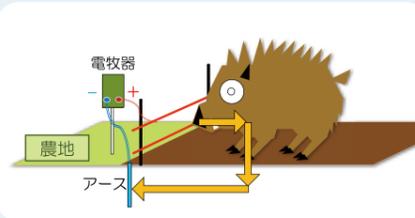
イノシシ対策はお済みですか? —電気柵設置の勘どころ—

今年は3月頃から田んぼの畦畔や法面のイノシシによる掘り返しが発生しています。春先に被害があった農地は、秋にまた被害が発生することがあります。イノシシの記憶は半年くらい保持されるので、春先に「おいしい」思いをしたことを覚えているのかもしれない。

さて、そんな記憶力の良いイノシシは、身の危険を感じる「痛い」思いもしっかり覚えています。痛い経験を覚えさせて農地への侵入を防ぐ道具が「電気柵」です。ただし、イノシシは硬い毛で覆われており、ほとんど電気を通しません。通電するにはイノシシの鼻が電線に、足の裏が地面に触れている必要があります。

非常に防御効果の高い道具ですが、電線を張った日から電源を入れなかったり、昼間は電源を切っていたりなど、電気を流していない時にイノシシが電線に触れた場合、ただの「邪魔な線」なので、簡単に潜り抜けます。恐ろしいことに、一度潜ったイノシシは次から電線を確認することなく潜るので、道具の効果はなくなってしまいます。

安全面にも十分にご留意の上、設置の基本をしっかり守って、農地を守って下さい。



問 日野郡鳥獣被害対策協議会 電話：0859-72-1399

江府町ボランティアセンターと神奈川交流サロンのオープニングセレモニーが開催されました



江府町ボランティアセンター（江尾）

4月14日（金）「江府町ボランティアセンター」と「神奈川交流サロン」のオープニングセレモニーが、江府町の影山副町長、日本財団の木田所長等の関係者が出席して開催されました。

これらの施設は、江府町と日本財団が中山間地域

問 日野振興局 地域振興課 電話：0859-72-2080 FAX：0859-72-2072

の生活支援モデルとして共同で取り組んでいる「江府町生涯住み続けられるまちづくりプロジェクト」の活動拠点となるものです。

江府町ボランティアセンターは、江尾駅前に整備され、交流サロンとしての機能に加え、まちづくりに関わる人材やボランティア育成の研修施設としての機能を備えています。

神奈川交流サロンは、買い物のついでに気軽に立ち寄れるよう、武庫駅前の店舗の一角を改修して整備されました。

江府町ではこれらの施設を地域の拠点として、高齢者が安心して暮らし続けられるまちづくりを進めていくこととしています。



神奈川交流センター（武庫）